

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 27 日現在

機関番号：34416

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2010～2013

課題番号：22242028

研究課題名(和文) 環東シナ海・環日本海沿岸域の文化交渉と歴史生態をめぐる学術的研究

研究課題名(英文) An Interdisciplinary Study on Cultural Interactions and Historical Ecology around the East China Sea and the Japan Sea

研究代表者

野間 晴雄(NOMA, HARUO)

関西大学・文学部・教授

研究者番号：00131607

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 30,700,000円、(間接経費) 9,210,000円

研究成果の概要(和文)：東アジア世界に位置する歴史的地域としての東シナ海、日本海、黄海・渤海・中国東北地方、広義の琉球・ベトナム、朝鮮半島の5つの部分地域として、環東シナ海、環日本海沿岸域の相互の交流、衝突、融合、分立などを広義の文化交渉の実体としてとらえる。それが表象された「かたち」である建築、集落、土地システム、技術体系、信仰や儀礼、食文化等を、地理学、民俗建築学、歴史学・民俗学の学際的研究組織で、総合的かつ複眼的に研究することをめざす。

いずれも、双方向の交流の実体と、その立地や分布を規定する環境的な側面が歴史生態として明らかになった。今後はこの視点を適用した論集や地域誌の刊行をめざしたい。

研究成果の概要(英文)：This interdisciplinary study, consisted of geography, folk-architecture, and history and folklore, aims to analyze and integrate various kinds of cultural interactions with historical ecology in the following five areas: The East China Sea; the Japan Sea, the Huang-hai, the Bo-hai and North-east China; the Korea Peninsula; and the broadly domain of Ryukyu and Vietnam. Analytical concepts and tools used here are interaction, collision, merging, separation and the like. The presentation includes architecture, settlement pattern, land-system, technological system, faith and rite, food culture as such.

In the conclusion, we have found out two-ways of cultural interactions and environmental aspects through the span of time. Hereafter we are planning to publish collected essays and regional monographs on every area from this point.

研究分野：人文分野

科研費の分科・細目：人文地理学, 人文地理学

キーワード：文化交渉 東シナ海 歴史生態 歴史地理学 民俗建築学 食文化 日本海 海域文化

1. 研究開始当初の背景

海や水域から沿岸域の歴史を俯瞰する発想は、F.ブローデルの『地中海』の大著以来、A.リードの東南アジア海域、中国経済史家の冊封・朝貢交易論や、網野善彦・村井章介・荒野泰典ら日本史家の内海や東アジア海域を焦点にあてた社会史など、ここ四半世紀の大きな世界的な潮流となってきた。

研究代表者らは「南海地域における琉球の歴史地理的実体と意味の総合的研究」(平成17~19年度科学研究費・基盤研究(B):代表・高橋誠一)で、海域国家「琉球」を主体として、従来の中心と周辺を逆転させて、これまでの日本や中国中心史観の打破を歴史地理学サイドから試みた。今回の申請はこの視点を継承しつつ、対象域を北に引き伸ばし広い意味での「東アジア海地中海」というべき日本海、東シナ海とその沿岸域をひとつの地域複合体とみなし、その沿岸域での歴史地理的な諸相を、「かたち」と「景観」をキーワードに学際的研究組織で検討を行った。

地理学、歴史学・民俗学、民俗建築学の3分野で学際的研究グループを組織し、徹底して建築(プラン・間取、付属建築物、意匠、利用)、集落・都市景観(地割、街路・ヒンブン・石敢當)・工業製品など「もの」にこだわり、上の歴史生態相互の文化交渉要素の考察に重点を置く。琉球・南海域よりは冷涼で乾燥した環境のもと、麦作を中心した畑作農耕文化の影響が強い対象地域も含めて、農地開発過程や米作の導入、近代化・植民地化における集落・都市の変容、民俗建築の変質、工業化の相互交流などを追求する。

2. 研究の目的

(1) 東アジア世界に位置する歴史的地域としての東シナ海、日本海、中国東北地方、琉球、朝鮮の5つの地域を、環東シナ海、環日本海沿岸域の相互の交流、衝突、融合、分立などを広義の「文化交渉」の実体としてとらえる。

(2) それ表象された「かたち」である建築・民家、集落、土地システムと、技術体系、信仰や儀礼を、地理学、民俗学・歴史学、民俗建築学による学際的研究組織で、総合的かつ複眼的に研究することをめざす。

(3) 具体的には、天草・壱岐・対馬の東シナ海域、出雲、北陸、庄内平野、蝦夷地・北海道の日本海域、黄海・渤海域から中国東北地方、広義の琉球と南シナ海・ベトナム、済州島を含む朝鮮半島の5つの地域を対象として班を構成する。

(4) 各々の地域は、集落、平野/島/半島地域の2つのレベルの「歴史生態システム」の追求から迫る。これらの地域は、海洋性気候に加え、冷涼、乾燥、雨量パターンに特色がある。各々の地域の歴史地理的なさまざまな事象の分析と総合から、新たな地域像を描出し、最終的には幾つかのテーマに特化した地域誌の作成を目標とする。

3. 研究の方法

東アジア世界のなかに位置する歴史的地域としての環東シナ海、環日本海沿岸域の相互の交流、衝突、融合、分立などの広義の「文化交渉」を、歴史的な環境と不可分な歴史生態のなかで把握し、それが表象された景観・「かたち」と史料を重視して分析する。

そのために、以下の11回の研究集会と国際シンポジウム1回開催し、うち3回を公開講演会として実施した。これらの研究集会で発表した代表者・分担者・連携研究者・研究協力者はのべ40名(うち中国3名、ネパール1名、ベトナム2名、韓国1名)で、外部からの依頼発表者と東西学術研究所非常勤研究員は計9名であった。

(1) 11回の研究集会の内容

第1回 2010.4.25 関西大学東西学術研究所 方法論の提示、発表3件

第2回 2010.7.19-20 長崎県平戸市生月島 「西海沿岸漁業・捕鯨の文化交渉と歴史生態」発表3件と現地討議

第3回 2010.11.27 関西大学東西学術研究所(公開) 発表6件

第4回 2011.2.11-12 福井県南越前町河野 「日本海沿岸域及び琉球の文化と経済の交流をめぐる」(公開)発表5件と現地討議

第5回 2011.4.30 関西大学東西学術研究所 発表5件

第6回 2012.2.12-13 (愛知県知多郡南知多町 「日本沿岸域の文化と経済の交流」発表5件と現地討議

第7回 2012.4.27-28 法政大学沖縄文化研究所 「日本沿岸域の文化と経済の交流 琉球と蝦夷地・北海道から」(公開)、法政大学沖縄文化研究所・関西大学東西学術研究所共催 発表4件と現地討議

第8回 2012.11.1-4 北海道函館市・長万部町、札幌大学(公開) 「歴史実体としての周縁 北海道・内と外から視点」発表6件と現地討議

第9回 2013.1.21 関西大学東西学術研究所(公開) 発表3件

第10回 2013.2.10-11 島根県立出雲古代博物館(公開) 「日本海域の文化交渉と出雲・石見・隠岐」発表4件と現地討議

第11回 2013.4.27-28 関西大学六甲セミナーハウス 「最終報告書の執筆テーマとその概要」発表1件

(2) 韓日共同国際シンポジウム

(公開2011年11月4日 韓国済州市で開催)

「交流からみた韓国と日本の風土と暮らし すまい・景観・経済」大韓建築学会済州支会・関西大学東西学術研究所共催

日本側4名、韓国側4名の発表と討議・総括を行った。さらに済州島を縦断しての現地討議を2日間実施した。

(3) 研究成果の社会への還元について

上記(1)(2)のほかに、2012年度には、高校生を対象として、共同研究の成果のうちで、中国と日本の文化交渉の観点での科研成果の還元の目的で、「ひらめき ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」(研究成果の社会還元・普及事業)を実施した。

(4)関西大学グローバル COE プログラム「東アジア文化交渉学の教育研究拠点」(2007～2011年度)や後継の関西大学アジア文化研究センター(CSAC)の「東アジア文化資料のアーカイブズ構築と活用の研究拠点形成プロジェクト」、さらには、関西大学東西学術研究所の共同研究プロジェクト「日本列島及び周縁地域の居住と暮らし 変容の視点から」(主幹・森隆男)と密接な連携と蓄積資料との連携を図った。

4. 研究成果

(1)対象フィールドについて

各人の研究フィールドは次の通りである。

ベトナム：フエ、ハノイ、中部高原

中国：遼寧省、山東省、黒竜江省、吉林省、陝西省、河南省、浙江省、福建省

朝鮮：ソウル、済州島、全羅道、北朝鮮

東シナ海：平戸、佐世保、対馬、天草

日本海沿岸：長門、島根半島、養父市、越前市、白山市、能登半島、庄内平野、北海道岩内町、帯広市、函館市、江差町ほか

広義の琉球：沖縄本島、渡名喜島、石垣島、小浜島、奄美大島、台湾ほか

日本その他：島田市、瀬戸内海沿岸、呉市、大阪市、知多半島、恵那、明日香村ほか

(2)主要な研究成果は以下の通りである。

対象域の民家の構成は“閉じた住まい”、“開いた住まい”で類型化でき、それは対馬、済州島や中国、沖縄・八重山地方も含めて、さらにはその南の台湾やベトナムなども含めて有効な概念となりうる。その指標として、ヒンブンや石垣がある。

18世紀から19世紀にかけての東シナ海沿岸の天草諸島から瀬戸内海・大坂にかけての商業取引・海運を、天草や大阪の史料から文献を分析した。さらに北海道、北陸から大阪に至る従来の北前船研究を踏まえ、類型化や港湾機能の特色、明治時代を含めた地域経済および港湾都市形成との関係を解明した。

日本の島嶼部の景観の保存・活用状況を調査し、その保存されるべき意義を有を考察した。とりわけ「負の景観」の議論として、沖縄及び瀬戸内海の島嶼部の戦争遺跡・戦争景観、宮古諸島の多良間島の抱護林、瀬戸内海の大久野島(毒ガス製造地)・大津島(人間魚雷・回天の出立基地)などを対象とした。

明治～昭和期の北海道日本海岸の小港湾都市・岩内町の盛衰を、出身地の分布から、本州の日本海岸とりわけ佐渡島・能登半島と

岩内との交流の様相を、ニシン漁業を中心に歴史地理学的に明らかにした。

城下町鶴岡では台湾や名古屋で都市計画に携わった黒谷市長のより1928年に導入された都市計画によってその後の都市づくりの方向性を示した点で評価される。

都市・建築にみる中国沿岸都市のアイデンティティを租界地であった青島・天津で、都市景観、建築物に注目して建築学的調査を行った。とくに日本租界の建築的特徴である銀行建築に注目した。都市の中国らしさとは何かを、観光との関わりや市民の共感性、ヨーロッパ的景観との混淆から分析した。

地籍図を積極的に景観復原や土地所有の分布に利用できることは日本のみならず、朝鮮・台湾などでも有効である。また地籍図はその表現に地域的な特性がある。石川県立図書館所蔵の県全域の地籍図調査から、白峰の焼畑が地籍図で山の種類が細かく分類されるなど(用材山、柴草山、雑木山、雪止山等)地域性が見いだせる。

琉球の伝統的集落景観とその構成を、沖縄本島的那覇・首里、今帰仁村、名護市を中心に考察した。その伝統的地理観や民俗観は現在の地割や家屋構成にも反映している。石敢當や村落境界の問題なども琉球世の周縁といえる奄美も含めて考察した。

東アジア沿海の農業技術の系譜は、華北の麦作・牛犁耕の畑作農業が、黄海経由で朝鮮半島中部に入り、南進して九州北部から中部にかけての2年3作農法に変容した。稲作は逆に朝鮮族の開拓によって北進し、中国満州地方の山間部に粗放的な湿地・直播型の粗放的稲作が19世紀後半に成立する。また日本人満蒙開拓団による寒冷地稲作の技術や移植栽培が20世紀前半に成立する。革命後、それが再度畑地化するが、近年は、中国人の良質米志向あいまって日本の技術を導入した一大米産地に変容した。北海道の畑作や稲作との関連も重要である。

中国畑作地帯の小麦の粉食文化が、核心である華北地方から中国東北地方に、華人の移動にともなって普及し、さらにその一部の要素が日本へはいり、新たな食文化を形成することになった。

明治中期から後期の日本の大陸進出にともない、華北・満洲の繊維市場の意味を、岡山県児島の腿帯子を事例に考察した。織物輸出は日本政府や華僑の情報網の役割が大きいとされるが、児島の場合は国内市場向け製品と技術を海外市場に転用し、最終的には華北・満洲での輸入代替産業により衰退し国内市場に回帰することになった。

1930年代以降に発展する植民地期朝鮮の工業化で、日本製綿糸の輸入急激による紡績と製織の分離とともに全羅道・慶尚道などの南部の綿作が拡大する。朝鮮最大の綿織物産地である晋州産の綿布を模した「日本晋木」を、朝鮮市場向けに好適な太番手・右捻りの紡績糸を日本で生産して輸出するなど双方

向の交流がみられる。

日本海沿岸域の文化交渉の例として、兵庫県但馬地方におけるスキーの普及を分析した。養父市関宮の水垣利次や神鍋高原の中島久太郎ら地元要素封家が果たした役割が大きく、先進地域での新聞社や鉄道事業とのタイアップによるスキー場開発方式とは異なる。

漂流後にアメリカ合衆国で学んだジョン万次郎は、故郷の土佐に琉球王国を経由して帰還した。そのために世界地図7枚が没収されずに持ち帰ることができ、これが土佐の若者の世界観に大きな影響を与えた。琉球王国の版図は日本の歴史教科書で地図として記載されてこなかったため空間認識が定着していない。

5. 主な発表論文等

(雑誌論文)(計91件)

NOMA Haruo. Japanese Geographers' Contribution to East and Southeast Asian Studies since the 1980s, Japanese Journal of Human Geography, *Jinbun Chiri*(『人文地理』), Vol.65. No.3, 2013, pp.1-16, 査読有

木庭 元晴「最近公開されたGISデータベース情報を使って得られた飛鳥及びその周辺の古代～更新世末期の自然環境」、『史泉』, 第119号, 2013年, 24-37頁, 査読有

OKA Eriko. A Study on Sustainability of the Houses and Living in Remote Island Village, A Case Study of Kohama Island in Okinawa Yaeyama Islands, *International Seminar on Architecture in Urbanized Maritime Culture: Chances and Challenges in Planning and Design for Sustainable Future A. Humane Architecture Themes 1*, 2013, CD版, 査読有

朴 賛弼「ソウル都城における宮殿の位置づけに関する研究」、『関西大学東西学術研究所紀要』, 第46輯, 2013年, 57-69頁, 査読無

上野 裕「都市形成における地理学の課題」、『大阪経済法科大学総合研究所紀要』, 第5号, 2013年, 65-76頁, 査読無

齋藤 鮎子「食と地域の対話 アジア食文化研究事始め」、『月刊地球』, Vol.35, No.2, 2013年, 108-114頁, 査読無

中俣 均「島に住むことに誇りを持つ離島振興を」、『しま』, 第232号, 2013年, 29-35頁, 査読無

野間 晴雄・松井 幸一・齋藤 鮎子『徐霞客遊記』の行程・観察記録の書誌的検討と史料の意義 - 福建省歴史GIS構築のための基礎的検討(1) - , 『関西大学文学論集』, 第62巻, 第2号, 2012年, 87-112頁, 査読無

松井 幸一・高橋 誠一「神の島・古宇利島の集落と伝統的地理思想 琉球としての再認識と強調」、『関西大学東西学術研究所紀要』, 第45輯, 2012年, 77-106頁, 査読無

高橋 誠一・松井幸一「琉球の伝統的集落

景観とその構造」、『東西学術研究所紀要』第45輯, 2012年, 107-129頁, 査読無

Tran Thi Mai Hoa, NOMA Haruo. Development of Japanese-style ecotourism based on school excursion: a case study in Iida City, Nagano Prefecture, *Jibun Chiri*(『人文地理』), Vol.64, No.4, 2012, pp.1-20, 査読有

石坂 澄子「石川県の明治期作成地籍図 白山市白峰地区・石川県立図書館の調査を通じて」、『自然と社会 北陸』, 第78号, 2012年, 1-17頁, 査読無

于 亜「郭沫若時代における上海の食風景 1900年～1949年を中心に」、『郭沫若研究第六高等学校創立百周年記念論文集』, 2012年, 61-70頁, 査読無

野間 晴雄「東アジア「地中海」における歴史生態基盤の地域性と文化交渉」、『東アジア文化交渉学研究』別冊8, 2012年, 113-137頁, 査読無

平井 松午「棚田の景観の歴史地理的に考える 近世実測絵図とGISを活用した文化的景観調査」、『日本の原風景・棚田』, 第13号, 2012年, 47-56頁, 査読有

西岡 尚也「琉球王国版図に関わる歴史教科書記述の課題 高校生・大学生へのアンケートからの考察」、『歴史と実践』, 第31号, 2011年, 51-63頁, 査読無

朴 賛弼「沖縄における伝統的集住空間構成に関する研究」、『関西大学東西学術研究所紀要』, 第44輯, 2011年, 273-296頁, 査読無

森 隆男「ヒンブンの諸相からみた中国文化の展開」、『関西大学東西学術研究所60周年記念論文集』2011年, 221-241頁, 査読無

山田 誠「近代日本の寺町における持続と変容 歴史地理学の立場から」、『龍谷大学佛教文化研究所紀要』, 第50集, 2011年, 1-24頁, 査読無

野間 晴雄「北前船を俯瞰する 点と線の残映」、『石川の自治と教育』, 第655号, 2011年, 16-31頁, 査読無

②野間 晴雄「17～19世紀江戸・東京近郊の花き園芸の発達と空間的拡散 グローバル/ローカルな視点から菊の歴史地理」、『東アジア文化交渉研究紀要』第3号, 2010年, 395-431頁, 査読無

②野間 晴雄「東アジア文化交渉学方法論序説(その1) フィールドとしての周縁と研究調査のための視座」、『関西大学文学論集』, 第60巻, 第3号, 2010年, 81-100頁, 査読無

③松井 幸一「那覇市壺屋集落における空間構造の特性」、『歴史地理学』, 第52巻, 第3号, 2010年, 30-48頁, 査読有

④山元 貴継「日本統治時代の韓国・濟州島における日本人経営果樹園 その造成と住民への継承を中心に」、『人文地理』, 第62巻2号, 2010年, 1-17頁, 査読有

⑤朴 賛弼「濟州島における伝統的集住空間

構成に関する研究」、『関西大学東西学術研究所紀要』、第43輯、2010年、65-93頁、査読無

〔学会発表〕(計85件)

荒武 賢一郎「日本列島市場論と地域流通」2013年5月28日、近世フォーラム例会、大阪市浪速区民センター

茶谷 まりえ「捕鯨の盛衰とくらしの変容 呼子と周囲の島々に残るクジラ文化の影響」、日本民俗建築学会、2013年5月18日、福山大学

斎藤 鮎子「浜松市における餃子の移植・普及に関する地域学的考察」、人文地理学会大会、2012年11月18日、立命館大学

平井 松午「幕末箱館周辺における蝦夷地陣屋の景観復原 古地図・GISを用いた試み」、歴史地理学会、2012年5月12日、新潟大学

山元 貴継「観光政策が韓国農村に与えた影響 慶尚北道慶州市江東面を事例として」、経済地理学会関東支部例会、2011年6月25日、明治大学

森 隆男「住居の開閉装置ヒンブン」日本民俗建築学会大会、2011年5月21日、愛知淑徳大学

野間 晴雄「周縁アプローチからみた東アジア文化交渉学の視座 方法論と実践をつなぐ「場」の要諦」、東アジア文化交渉学方法論研究会、2010年9月28日、中国浙江省商工大学(杭州)

永瀬 克己「住居空間からみた景観「石垣から読み取る喜界島民家の空間構成」、『日本建築学会』、2010年9月9日、富山大学

Nguyen Thi Ha Thanh. "The Urban Development through Spatial Usage of Hue City, Vietnam in the 19th Century", Conference proceeding of the 14th International Conference of Historical Geographers, Kyoto University, 2010.08.08, pp.155-159

〔図書〕(計30件)

関西大学文学部地理学・地域環境学教室編、伊東 理、野間 晴雄、堀内 千加、舟越寿尚ほか『北海道十勝 帯広市の地理』、関西大学文学部地理学・地域環境学教室、2014年、185頁

野間 晴雄編、野間 晴雄、森 隆男、水田 憲志、松井 幸一、高橋 誠一、中園 成生、『環東シナ海をめぐる文化とひとの交流』、環東シナ海・環日本海沿岸域の文化交渉と歴史生態の学術的研究」研究グループ(関西大学文学部・野間晴雄)、2014年、114頁

荒武 賢一郎編、荒武 賢一郎、野間 晴雄、曲田 浩和、菊池 勇夫『近世・近代における日本列島の沿海社会と海運』、環東シナ海・環日本海沿岸域の文化交渉と歴史生態の学術的研究」研究グループ(関西大学文学部・野間晴雄)、2014年、63頁

森 隆男編、森 隆男、野間 晴雄、伊東 理、朴 賛弼、山元 貴継、中俣 均、松井 幸一、高橋 誠一、茶谷 まりえ『住まいと集落から風土をさぐる 日本・琉球・朝鮮』、関西大学出版部、2014年、319頁

中俣 均『渡名喜島 地割制と歴史的集落景観保全』古今書院、2014年、164頁

平井 松午・安里 進・渡邊 誠編『近世測量絵図のGIS分析 その地域的展開』、古今書院、2014年、219頁

人文地理学会編、野間 晴雄、伊東 理、山田 誠、中俣 均、山元 貴継、平井 松午、西岡 尚也『人文地理学事典』、丸善出版、2013年、792頁

矢嶋 巖『生活用水・排水システムの空間的展開』、人文書院、2013年、358頁

森 隆男『住まいの文化論』、柘風社、2012年、307頁

永瀬 克己『復刻デザイン・サーベイ 建築文化誌再録』、彰国社、2012年、158頁

HGIS研究協議会編、平井松午・野間晴雄『歴史GISの地平 景観・環境・地域構造の復原に向けて』、2012年、勉誠出版、281頁

高橋 誠一『日本と琉球の歴史景観と地理思想』関西大学出版部、2012年、358頁

国永 美智子、松田 ヒロ子、松田 良孝、水田 憲志『石垣島で台湾を歩く もうひとつの沖縄ガイド』、沖縄タイム社、141頁

荒武 賢一郎・野間 晴雄共編者『天草諸島の文化交渉学的研究』、関西大学グローバルCOE教育研究拠点、2011年、200頁

朴 賛弼『ソウル清溪川再生 歴史と環境都市への挑戦』、鹿島出版会、2011年、221頁

野間 晴雄編、野間 晴雄、松井 幸一、高橋 誠一、チャン・アイン・トゥアン、吉田 雄介、水田 憲志『文化システムの磁場 16~20世紀アジアの交流史』、関西大学出版部、2010年、369頁

民俗建築学会編、永瀬 克己、森 隆男、朴 賛弼『日本の生活環境文化大事典 受け継がれる暮らしと景観』、柏書房、2010年、514頁

〔その他〕

朴 賛弼、「ソウル清溪川再生」、写真・図面展覧会、大阪、駐大阪韓国文化院、2013年2月26日~3月13日

野間 晴雄・森 隆男・于 亜・齋藤 鮎子『粉もんから東アジアがみえる 餃子・麺類・饅頭』図録・講義資料、2012年10月26日、関西大学文学部

6. 研究組織

(1) 研究代表者

野間 晴雄 (NOMA, HARUO)

関西大学・文学部・教授

研究者番号: 00131607

(2) 研究分担者

森 隆男 (MORI, TAKAO)
関西大学・文学部・教授
研究者番号：30388409

高橋 誠一 (TAKAHASHI, SEIICHI)
関西大学・文学部・教授
研究者番号：00025082

木庭 元晴 (KOBAYASHI, MOTOHARU)
関西大学・文学部・教授
研究者番号：40141949

伊東 理 (ITO, OSAMU)
関西大学・文学部・教授
研究者番号：70116309

荒武 賢一郎 (ARATAKE, KENICHIRO)
東北大学・東北アジア研究センター・
准教授
研究者番号：90581140

岡 絵理子 (OKA, ERIKO)
関西大学・環境都市工学部・准教授
研究者番号：60346187

永瀬 克己 (NAGASE, KATSUMI)
法政大学・デザイン工学部・教授
研究者番号：30061237

朴 賛弼 (PARK, CHANPIL)
法政大学・デザイン工学部・助手
研究者番号：20350217

中俣 均 (NAKAMATA, HITOSHI)
法政大学・文学部・教授
研究者番号：60135895

平井 松午 (HIRAI, SHOGO)
徳島大学大学院・ソシオ・アーツ・アンド・
サイエンス研究部・教授
研究者番号：20156631

山田 誠 (YAMADA, MAKOTO)
龍谷大学・文学部・教授
研究者番号：70086172

山元 貴継 (YAMAOMOTO, TAKATSUGU)
中部大学・人文学部・准教授
研究者番号：90387639

西岡 尚也 (NISHIOKA, NAOYA)
大阪商業大学・総合経営学部・教授
研究者番号：60336360

(3)連携研究者

矢嶋 巖 (YAJIMA, IWAO)

神戸学院大学・人文学部・准教授
研究者番号：80513845

(4)研究協力者

松井 幸一 (MATSUI, KOICHI)
関西大学・アジア文化研究センター・PD

于 亜 (Yu, Ya)
大手前大学・非常勤講師

チャン アイン・トゥアン (TRAN, ANH TUAN)
ベトナム教育文化省・高等教育局・次長

グエン ティ・ハーティン (NGUYEN, THI HATHANH)
ベトナム国家大学ハノイ校・理科大学地理
学部・専任講師

チャン ティ・マイ・ホア (TRAN, THI MAI HOA)
ベトナム国家大学ハノイ校・人文社会大
学・観光学部・職員

水田 憲志 (MIZUTA, KENJI)
大手前大学・史学研究所研究員

吉田 雄介 (YOSHIDA, YUSUKE)
神戸学院大学・非常勤講師

水谷 彰伸 (MIZUTANI, AKINOBU)
関西大学・非常勤講師

元田 茂光 (MOTODA, SHIGEMITSU)
関西大学・非常勤講師

安原 美帆 (YASUHARA, MIHO)
ライデン大学研究員,
神戸女子短期大学・非常勤講師

堀内 千加 (HORIUCHI, CHIKA)
大阪産業大学・非常勤講師

斎藤 鮎子 (SAITOH, AYUKO)
関西大学・文学研究科・博士課程後期課程

舟越 寿尚 (FUNAKOSHI, SUNAO)
関西大学・文学研究科・研究生

茶谷 まりえ (CHATANI, MARIE)
関西大学・東西文化研究所・非常勤研究員

林 泰寛 (HAYASHI, YASUHIRO)
法政大学大学院・デザイン工学研究科・博
士課程

後藤 さとみ (GOTOH, SATOMI)
法政大学大学院・デザイン工学研究科・修
士課程

海老原 翔太 (EBIHARA, SHOTA)
法政大学大学院・デザイン工学研究科・修
士課程